

光陰矢の如し

常務理事 山内尚隆

仕事はやめても自分の経験をなんとか生かしたいと、世のため、人のために、感謝御礼の気持ちでスタートした山内技術士事務所(有)山久(サンキュー)ではあったが、何時の間にか当ハートの会と技術支援集団(有)イーテックが仕事の主体となって、はや10年が経過した。ハートの会の実施行事一覧表を見ると、当時無名だった川口順子外相を第1回講師に招聘し、当会の進め方の御指導を頂戴して以来、よく此处まで頑張ったと胸を張って言えると思う。当時元気だった父が「1人で仕事をするより、安立一郎蔵前金曜会幹事や平山達東海大学副学長の様な立派な方々が作られる会なら、御指導を受けなさい」という鶴の一声で昭和電工本社OB談話室の打合会に出席したのが平成6年8月だった。英語の頭文字をとって「HEARTの会」と命名したのは素晴らしいことで、当時商標登録をするか検討したが、最近では大学に「人間環境学部」等も出来、先見の明があったとつくづく思う。

ハートの会のおかげで、伊藤宏太郎西条市長を通じて、地方の時代にあった作業を進めている。幸い6年間住んだ高知と緯度が同じ地球33番地(北緯33度、東経133度)なので仕事も進め易く、平成10年3月に「西条市エネルギービジョン策定委員会」に会員5名で参画し、昨年の地元委員中心の「西条市省エネルギービジョン」にも参画した。然し何といても(株)西条産業情報支援センターを設立し、中小企業の支援のため、毎月のように西条通いをし、地域活力創出をし、5年間黒字に推移しているのは心強い。西条市は11月から東予市、小松町、丹原町と合併し、人口も倍増の12万都市となる。地下に3.5億トンもある「うちぬき名水」は有名だが、天候も温暖で、年平均気温18度、晴220日余、曇100日余、雨40日余という土地なので、合併を機に市長の御意向に沿い、「食と農」の機関を作るべく準備している。昨年、経済産業省の「即効型地域新生コンソーシアムの研究事業」に応募し、10倍の競争をしいので1億円の補助金で14度の水をマイナス20度の氷としてつくり出すことが出来た。冷媒に水

素を使った冷凍、冷蔵装置で、まだランニングコストが高いが、排ガスの有効利用が出来れば、トータルとして経済効果が出るし、氷による冷房や氷温熟成や冷凍保存などによる新しい食文化、食料備蓄等として発展していくと思う。

最近、工場火災や三菱欠陥車事故、六本木の回転扉事故、関電の蒸気噴出事故等の他、強盗、窃盗等も多く、自殺者も3万4千人余と急増しており、10年たった現在日本の安全神話は崩壊し、安全、安心の国ではなくなった。佐世保の小学生殺人事件などを知ると、情報通信技術を活用し、活力ある高齢社会、安全な社会をめざさねばならないと思う。私自身のこの10年間を顧みても電子手帳からワープロ、パソコン、更には携帯電話、ロボット、新三種の神器とIT技術の発展に振り回されて、努力しているが、若い人の進歩にはとてもかなわない。ただ若い人は「オレオレ詐欺」だの本を携帯で写したり、万引を泥棒とっていない等人間としてどうかと思う人も多い。歴史も昔のことしか教えないからか、太平洋戦争の事を知らない子供も多く居りびっくりする。21世紀に危惧されているのは「日本では少子高齢化と39%の食糧自給率の向上、世界では人口増、温暖化、水不足等」が心配されて居り、我々のやることは沢山あると思う。

6月から理事会も横浜の「かながわ県民サポートセンター」と桜木町の「横浜市民活動支援センター」で開催している。そうして会報も理事と会員有志の手づくりで試作し、経費節減に努めている。サポートセンターには1600余の色々な会が利用しており話題により他の会との連携も出来る。松沢知事のように首都圏としてとらえれば、地方から起こっている改革も出来る。参加型、相互啓発の交流を軸として、環境配慮の知恵をまとめ、行動にも繋げられる。年を取っても新しいことを始める等、ひと味違った会にしたいという原点に戻って、生き生きと一歩先をみたり、横をみたり、後ろをみたりして、人間環境活性化への貢献のため、積極的な提言御協力をお願いし更に立派な会にして行きたい。